

事例1 単元「話の組み立てや言葉づかいを考えてたずねよう」

インタビュー名人になろう

国語 第5学年
白山市立鳥越小学校・教諭

1 事例の概要

普段子どもたちが教師に話しかける時、単語だけを羅列し、「～だから～する（したい）」という部分が不明確な話し方をすることがある。今年度担任している5年生にも、4月当初は前述のような傾向があつて気になった。さらに、授業や学級活動の中での話し合いでも、話す声が小さかったり、聞く場合も何かを触っていたり、隣の子とおしゃべりをしたりしていることがあつた。そこで、「話し方」「聞き方」の基本を授業中だけでなく休み時間など、毎日の生活の中で意識しながら徹底的に反復させるように心がけた。国語の授業の中でも伝え合う力（コミュニケーション能力）を養うために、「話すこと・聞くこと」の学習を取り入れ、指導の工夫をしていきたいと考えた。

A-1 話すこと・聞くことの学習にあたって

A-2 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の見通し

目的や内容を明確にし、相手に応じた言葉づかいでインタビューをし、話し手の答えを予想しながら話の内容を聞くことができるようにする。

(2) 指導上の工夫点

① 児童の実態に合わせた学習展開

クラス的人数が37名と多いので、一人ひとりに意識を持たせるためにも、友達と一対一の形態をとり計画を立てさせることにした。また、インタビューの活動が楽しいものになるように、質問される方も答えやすいような話題にしたいと考えた。そこで、目的を「クラスの人のことをよく知るため」とし、事前調査では「今、夢中になっていること・楽しいこと」を書き出させた。その事前調査の結果をもとに、質問することを考え、答えの予想を立てさせた。インタビューする相手は、なるべく男女混合になるように班のメンバーで相談させた。

② 目的意識と相手意識を明確にした練習

インタビューの実践にあたって、目的（なんのために）、相手（だれに）、質問内容（どんなことを）、時（いつ）をはっきりさせておく必要があることを指導した。場合によっては事前にインタビューの依頼を相手に交渉しなくてはならないことも併せて知らせた。また、あいさつや適切な言葉遣いなどのマナーも確認した。

③ ワークシートの工夫

インタビューの計画を立てるためのワークシートには、「実際の聞き方」を書く欄を設けた。また、予想した答えを書けるようにもした。

④ 教師の適切な支援

計画を立てる時間やインタビュー練習では、子ども達がどのような点でつまずき、どのように解決しようとしているかを机間指導しながら把握することに努めた。実際の活動では、単に「質問→回答」の繰り返しになっている子には、さらに話が広がっていくような質問を考えるように助言したり、事前調査のメモを活用して新たな質問を考えるようにしたりした。

⑤ 自己評価・相互評価

1回目の練習の後は自分で気づいたことを書き、相手にも助言してもらうようにした。それらの反省点を生かして、インタビューの原稿を修正する時間を設けた。2回目の練習では評価カードを利用して、自己評価と相互評価をさせるようにした。

B-1 単元計画・評価計画

B-2 指導上の工夫

3 指導の実際

学習活動	○教師の働きかけと児童の反応	☆支援と◆評価
1.本時のめあてを知る	友達どうしインタビューをして、気づいたことやアドバイスを伝え合おう	
2.インタビューの練習をする	○ 原稿を声に出して読み、質問内容や言葉づかいを確かめよう ・ あいさつの言葉は入っているかな ・ ていねいな言葉づかいになっているかな ・ 答えの予想はしてあるかな ○ 2人組で交代しながら原稿をもとにインタビューをしよう ・ メモをとりながら聞く ○ 練習をふり返り、互いに気づいたことやアドバイスを伝え合おう	☆インタビュー原稿を声に出して読み、各自ポイントを確認させる ◆相手に応じた言葉遣いでインタビューしている（練習中）
3.2人組でインタビューをして気づいたことを話し合う	間の取り方が悪かったな ていねいな言葉づかいができた もっとゆっくり話した方がいいよ 感想や相づちも入れよう その場で考えてたずねるのはむずかしいな 予想とちがう答えの時はうまく続けられなかった もっと事前調査を生かした質問を考えなくっちゃ ○ 助言し合ったことをもとに、インタビュー原稿を書き直そう ・ 質問のしかたを変えてみよう ・ 答えに関連のある質問を付け加えよう	☆ワークシート①インタビュー計画書に気づいたことや友達からのアドバイスを記入させる ☆気づいたことやアドバイスをみんなに紹介する（発言）
4.次時のめあてを知る	気づいたことや友達からのアドバイスを次のインタビューに生かそう 書き直した原稿をもとに2回目のインタビューを成功させよう	
C-1 指導案 C-2 ワークシート① C-3 ワークシート②		

4 成果と課題

(1) 指導上の工夫

- ① 児童の実態に合わせた学習展開…簡単なインタビューのコツ（うなずき、相づち）や関連のある質問を考えさせることにより、内容が改善されていった。
- ② 目的意識と相手意識を明確にした練習…実際のインタビュー時間はどの子も短かったので、2人組の練習は予定より数多く行わせた。練習を重ねていくと、計画の段階では気づけなかったことがいくつか出てくる。自分の質問が目的に沿っているかどうかだけでなく、インタビューを受ける立場を体験することで、「この聞き方は答えにくいな。」「感想はこんなふうに言えばいいのか。」など自分の計画を見直すことにもつながった。
- ③ ワークシートの工夫…練習で気がついたことは、ワークシートに書き込ませることによって、よりよくなっていく過程を子ども自身が自覚できた。
- ④ 教師の適切な支援…相手の答え方によっては「例えば、どんなものですか。」と詳しく聞こうとすると話が広がっていくとアドバイスした。また、質問される側が話しやすくするために、インタビュー中のうなずき、相づち、相手の話したことを繰り返すなどの手法が有効であることも教えた。
- ⑤ 自己評価・相互評価…インタビュー練習の様子をビデオに録画し、よいところを紹介した。お互いのよさを認め合う機会として、さらに次の意欲へつながったようだ。

(2) 支援と評価の工夫

どんな学習活動においてもよりよい支援をするためには、子ども一人ひとりへの的確な評価が必要となる。しかし、「話すこと・聞くこと」の評価は記録として残しにくいと非常に難しい。評価規準を明確にもつとともに、日頃の学習の様子から、特に配慮すべき児童を中心に、指導・支援・評価をしていくようにする必要もあるだろう。

D-1 成果と課題

D-2 評価カード

D-3 ワークシート例

D-4 参考文献